

# 平成25年度 宇都宮市立田原小学校 学校評価書

## 1 教育目標（目指す児童像含む）

豊かな心や健やかな体をもち、自ら考え、取り組み、判断し、新しい時代を創造的に生きる児童を育成する。

- (1) かしくく — よく考え がんばりぬく子ども — 「学ぶ意欲と思考」の育成
- (2) なかよく — すなおで 思いやりのある子ども — 「他人への思いやり」の育成
- (3) 元気よく — じょうぶで 明るい子ども — 「強い心と体」の育成

## 2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

次代を担う児童一人一人が、社会的自立を果たして未来を創造的に生きていく力を身に付けることができるよう、教職員がそれぞれの持ち味を発揮しながら、家庭・地域と連携し、共に本校の教育を担う者として英知と熱意を結集することにより、一体感のある活力に満ちた教育活動を展開する。

児童の発達の段階や個人差に目を向けつつ、同時に、人としての成長は、望ましい集団の中で保障され、促進されることを重視し、常に「個」と「集団」の双方の視点を持ちながら、教育目標の達成を目指して、あるべき学校教育の姿を追求し続ける。

## 3 学校経営の方針（中期的視点） ※地域学校園内で共通する方針は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

### (1) 児童一人一人が大切にされていると誰もが実感できる学校

「田原小は、児童一人一人を大切にし、温かい雰囲気包まれている」と、児童・保護者・地域住民の誰もが実感できることが、学校に対する信頼感を生み、日々のさまざまな取組が教育的に意味をなす母体となる。

### (2) 児童・教職員の双方にとって居心地の良い学校

優しさ（母性）と厳しさ（父性）のバランスの上に、「護られている感覚」や「伸び伸びと自分を表現できる安心感」が生まれ、「居心地の良さ」や「楽しさ」につながる。この点においては、児童・教職員とも同じである。

### (3) 児童に内在する「育つ力」が十分に発揮される学校

～ 確かな学力、健康な体と体力、豊かな心と社会性の育成 ～

児童が生涯にわたって自分らしさを発揮しながら、社会的自立を果たし、充実した生活を送ることができるよう、発達著しい児童期に必要な学習や体験を十分に積ませる。個々の児童が持つ「育つ力」を引き出し、可能性の芽を膨らませていく。

### (4) 家庭や地域と連携して教育効果を高める開かれた学校

教育資源として家庭・地域の活用を図り、活動の幅を広げることにより、教育効果を高める。地域のシンボリック存在として、主体性を発揮しつつ、敷居を低くして積極的に地域に開いていくことが、地域に愛され、見守られる安全な学校環境づくりにもつながる。

### (5) 教職員が連帯協働し、共に高め合いながら質の高い教育を提供する学校

教育活動の中核をなす授業や学級経営などについて、教職員が学年を超えてオープンに、日々の実践や指導上の悩みなどを語り合える雰囲気を大切にする。各教職員が、自由闊達に交流することが、和やかな学校の雰囲気を形成し、質の高い教育の提供に反映される。

### (6) 校務を適正に処理し、組織として社会的責任を果たす学校

教育目標の達成に向けて、学校運営が滞りなく進行していくために、教職員一人一人が法令を遵守し、教育公務員としての自覚と使命感を持って、学校運営に係るさまざまな校務の処理を適正に行う。すべての教職員が、学校を代表する存在であることを常に念頭に置いて職務に当たる。

4 今年度の重点目標（短期的視点）※地域学校園内で共通する目標は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学 校 運 営】

「魅力ある学校づくり地域協議会」と連携し、地域の教育力を活用した教育活動を展開するとともに、積極的な情報発信と学校開放、地域との交流活動を通して、家庭や地域から信頼され、地域に開かれた学校づくりを推進する。

【学 習 指 導】

本校児童の学力の実態を踏まえながら、単元や本時の目標達成に向けて、わかる・できる・楽しい授業づくりを創意工夫することにより、知識・技能の習得と、思考力・判断力・表現力の育成を目指すとともに、学習のルールを守り、行動の切り替えが適切になされるよう繰り返し指導し、学びに向かう姿勢の定着化を図る。

【児 童 生 徒 指 導】

仲間と協力して行う活動や、言語・身体・作品等による自己表現を認め合う活動を通して、達成感や感動を共に分かち合う経験を重ね、児童相互の人間関係の強化を図るとともに、自他を認め、互いに支え合う心と、主体的に行動する態度を育てる。

【健康（保険安全・食育）・体力】

教科体育や体育的行事・活動において、発達の段階に応じた十分な運動量を確保し、体力の向上を目指すとともに、心身の健康の増進を図る。

また、持てる体力を出し切り、困難を乗り越える経験を積ませることにより、自己への自信を芽生えさせ、失敗を恐れずに物ごとにチャレンジする強い精神を培う。

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※地域学校園内で共通する取組は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】全体アンケートの「私は今の学校が好きです」⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 学校評価や学校行事の反省等を生かし、児童が生き生きと活動する教育活動を行い、活気のある学校づくりに努める。 ② 集会活動・体験活動などを工夫し、児童が生き生きと活動できるよう努める。 ・縦割り班活動の充実 ・外部講師等による体験活動の充実	B	【達成状況】 ・全体アンケートで、児童の肯定的回答は 88.5%と前年度より1ポイント上回ったが、指標に達しなかった。保護者は 91.9%、地域住民は 100%とそれぞれ高い肯定的回答を得ており、適切な教育活動の設定と実践が評価されたと考えられる。  【次年度の方針】 ・行事アンケート等から適宜内容を検討し、検証したことをすぐ次に生かせるようなマネジメントサイクルを有効に活用し、児童が生き生きと活動する教育活動を今後も推進していく。 ・児童の肯定的割合が昨年度より若干上がったが、集会活動・体験活動などを充実させ、児童の交友関係に目を向け、教育相談の機会を十分に生かすなどして、より良い人間関係づくりに努めるようにする。
	A2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】全体アンケートの「先生方は、大切なことを熱心に指導してくれる」⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 全職員が学校経営に参画意識を持って、協力して教育に当たるように努める。 ② 児童一人一人をよく見取り、声をかけ、よく話を聞き、良いところは認め、指導すべき事はしっかり指導する。 ③ オープンスクール、授業参観や懇談会等の機会を通して、学校理解を深めるよう努力する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は、94.2%と高く、目標を十分達成している。保護者の肯定的回答も昨年度並みの 91.7%と高く、日々実践していることが児童に伝わり、具体的な取組みが保護者にも理解されていると考えられる。  【次年度の方針】 ・基礎学習の時間や図画工作科を中心とした研究に、教職員が協力して取り組み、教育の充実に努める。 ・保護者や地域の方々に開かれた学校づくりを目指し、保護者の声を取り入れる機会を設け、誠実な対応に努めるよう全職員で取り組んでいく。

<p>A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 学校でのきまりを徹底するために「田原小のやくそく」を提示し、教職員が共通理解の下、生活指導はもちろん、学習指導や日課等でも、きまりを守ることの大切さを繰り返し指導する。</p>	<p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 75.0%と指標を下回った。これは、継続して指導を続けた結果、児童の規範意識が向上し、自分たちの行動をより厳しく評価したためと思われる。</p> <p>B 【次年度の方針】 ・地域学校園のきまりや約束を確認し、学習指導や生活指導など学校生活全般にわたり、全教職員が同一歩調で指導をしていく。 ・「よい子の一日」をもとに、生活についての指導を継続するとともに、学校での取り組みを家庭にも伝えて協力を得る。</p>
<p>A4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 各教科で標準授業時数(文科省)を確保するとともに、「基礎学習の時間」において、漢字・計算・音読などを発達段階に応じて取り入れ、基礎的・基本的な内容の確実な定着が図れるよう努める。</p> <p>② 一人一授業公開を目標に、「わかる・できる・楽しい」授業の工夫に努める。</p>	<p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は、93.1%で目標は十分達成した。教職員、保護者、地域住民の肯定的な意見も 100%, 84.8%, 95%と高くなっている。しかし、保護者の肯定的意見が昨年度に比べると 2%ほど下がっている。</p> <p>B 【次年度の方針】 ・毎日の授業はもちろん、授業参観やオープンスクール等でも分かりやすい授業を公開し、保護者の方に安心していただけるようにする。 ・放課後の教材研究の時間を確保し、学年間の協力や教師間での情報交換を活発に行い、授業の工夫に努める。 ・宿題やテスト、プリント等を丁寧に見たり、ドリルも十分活用したりしながらきめ細かな指導を行い、学習効果が上がるようにしていく。</p>
<p>A5 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「私の学校生活や様々な活動は充実している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 小中一貫教育の趣旨を踏まえ、<u>夏季休業中の授業実施や日課を工夫</u>することで授業時数を確保する。</p> <p>② 児童の主体的な活動や体験的な活動を取り入れ、行事ごとに評価を実施し改善を図るようにする。</p>	<p>【達成状況】 ・学校生活での生活や様々な活動が充実していると感じている児童の肯定的な回答は、89.6%と高く、保護者も 97.6%と高くなっており、十分目標を達成している。</p> <p>B 【次年度の方針】 ・時数増加による負担感がなくなるように教育課程を編成する。 ・行事や日課などの反省をもとに、よりよい年間計画(行事)や日課となるように工夫していく。 ・土曜授業も有効活用し、授業時数を確保する。</p>
<p>A6 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 「オープンスクール」や授業参観等を学期に2日以上実施し、学校公開を保護者だけでなく、地域に向けても積極的に行う。</p> <p>② 学校便りを毎月1回発行するとともに、ホームページを定期的に更新して、保護者や地域住民など多くの人に知らせる。</p>	<p>【達成状況】 ・全体アンケートの保護者の肯定的回答は、96.8%と昨年とほぼ同じで、目標を十分達成しているといえる。</p> <p>B 【次年度の方針】 ・オープンスクールや授業公開の方法を工夫し、また、いつでも学校参観ができることを呼びかけ、学校の様子や授業における児童や教職員の姿を伝えていきたい。 ・学校便り、学年便り等を定期的に提供してきたが、さらに活動の趣旨や教育的意義について、内容の精選を図り、保護者や地域住民に学校の様子を分かりやすく伝えていくようにする。地域学校園の情報についても積極的に発信していく。</p>
<p>A7 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し楽しい」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 「魅力ある学校づくり地域協議会」との連携を強化し、学校・保護者・地域住民が一体となって、教育活動の充実と活性化を図る。</p> <p>② 授業ボランティア(地域の外部講師・街の先生)と連携した授業を計画的に実施し、その成果についても広く情報発信するよう努める。</p>	<p>【達成状況】 ・全体アンケートの児童の肯定的回答は、85.4%であり、昨年度より3.6ポイント下がったが、指標を達成することができた。</p> <p>B 【次年度の方針】 ・各学年において授業ボランティアと連携した授業を計画的に行うことができた。地域協議会が大きく貢献していることを各種便りで伝えてきたが、さらに、保護者や地域住民への説明の機会を設けるなど努力していく。 ・学校内のニーズ(実施時期や内容)をよく検討して、ボランティア活用の精選・充実を図るとともに、児童とボランティア双方に実施後の満足感が得られるような工夫をしていく。</p>

教育活動の状況		A8 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】全体アンケートの「学校は、清掃が行き届き、荷物や備品などが整理整頓され、学習しやすい環境である」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 毎月、施設・設備の安全点検を実施し、修繕・補修を迅速に行い、学習にふさわしい環境づくりに努める。 ② トイレと水道周りは、常にきれいに維持できるように、使用法の徹底を図るとともに、清掃活動において重点的に指導する。	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は、93.4%で昨年度の91.5%を上回り、十分に目標を達成している。  【次年度の方針】 ・今後も、機動班やボランティアとの連携を図りながら、学習にふさわしい環境を整える。 ・年間の掲示計画に沿って潤いのある環境づくりに努める。 ・各学級で、清掃の仕方やトイレの使用法についての指導に重点をおき、継続指導を行う。
		B1 学校は、事故防止・安全対策に努めている。 【数値指標】全体アンケートの「学校は事故防止や安全対策に積極的に取り組んでいる」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① 月1回の全校下校、毎日の学年下校、交通安全教室、不審者対応避難訓練を実施する。 ② 家庭・地域との連絡体制(田原小安全対策連絡会による防犯パトロール・子ども110番の家)を継続し実施する。	B 【達成状況】 ・全体アンケートで、保護者の肯定的回答は91.3%で指標を1.3ポイント上回った。教職員の評価は、100%を達成したが、地域住民の評価は、昨年の評価を4.5ポイント下回った。  【次年度の方針】 ・成果があったものについては、引き続き次年度も継続して実施していく。 ・地域学校園で連携をとりながら、教職員が各指導場所に立って登校指導にあたり、様子を全校集会や校内放送で全児童に伝える。 ・登下校の様子や指導内容、危険箇所について学校便りや各種便りを通して発信し、保護者や地域に知らせることにより、情報を共有しながら協力して、児童の安全を守っていく。
	生 活	A9 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 地域学校園で毎月第2週をあいさつ週間とし、その実施方法を工夫し、地域とも協力して基本的生活習慣の育成を図る。 ② 地域協議会と連携し、あいさつ標語を募集し、優秀作品を掲示するなどして、あいさつへの関心・意欲を高める。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答割合は89.6%で指標を上回った。昨年度との比較でも3.7ポイント上昇した。教職員・地域住民の回答も昨年度よりよくなっており、あいさつについての意識は高まってきている。  【次年度の方針】 ・児童会を中心としたあいさつ運動や、地域学校園で協力しながらのあいさつ運動を実施し、田原中学校生徒の元気なあいさつを目標に、意識の高揚を図る。 ・学校内においても、道徳・学級活動等の時間を活用して時と場に応じたあいさつの大切さを理解させるとともに、その習慣化を図る。
		A10 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】全体アンケートの「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 気持ちよい言葉づかいや返事について共通理解を図るとともに、日常的な指導を繰り返し実施し、保護者にも協力を呼びかける。	A 【達成状況】 ・児童の肯定的回答割合は75.7%で指標を下回った。教職員・保護者・地域住民の回答も32～66%と低い値であった。  【次年度の方針】 ・気持ちの良い言葉遣いやきちんと返事することについて、学習指導中に聞き方・話し方の指導を実施したり、学級活動に位置づけたりして、繰り返し指導する。 ・正しい言葉づかいを身につけさせるためには家庭との連携が不可欠なため、学校便り、学年便り、保護者会等を通して広く啓発していく。
		B2 児童は思いやりの気持ちをもって行動している。 【数値指標】全体アンケートの「クラスのみんなは、あなたに声をかけてくれたり親切にしてくれたりする」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① いじめの早期発見・早期対応のため実態調査を年4回実施するとともに、おしゃべり週間や「Q-U」の結果を生かし、児童が安心して生活できるようにする。 ② いじめ・生命尊重についての心に響くような内容での道徳や学級活動の授業を1回以上は行う。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は88.8%と指標を上回った。教職員・保護者の肯定的回答割合も昨年度よりも数ポイント向上した。  【次年度の方針】 ・否定的回答をしている児童がいる実態を見逃すことなく、相手を思いやることの大切さや、他者とのより良い関わり方についての指導を継続していく。 ・児童の自尊感情を高め、人権教育を適切に実施することで、他者への思いやりの心を育てる。 ・個別の支援が必要な児童には、校内担当者やスクールカウンセラーと連携し、対応していく。

健康・体力	<p>A11 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「児童は休み時間や放課後などに進んで運動している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 元気っ子健康体力チェックの結果などをもとに、定期的に重点運動を決めて、児童が目当てを持って運動に取り組めるようにする。</p> <p>② 体力や技能を向上させるための取り組みを、年間を通して実施する。 ・<u>縄跳び、水泳、鉄棒の検定カードを活用する。</u></p>	<p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は、80.6%と指標を0.6ポイント上回ったが、保護者・地域住民の肯定的回答は昨年度とほとんど変わらない。間近に児童を見ている教職員の肯定的回答は、64%と昨年度より2.6ポイント下回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ・健康な児童は外に出るように担任や過番が声かけをして、学校全体で各クラス足並みを揃えた指導を行う。 ・ロング昼休みに、教職員が遊び塾と称して運動や遊びなどを計画し、外遊びの機会を設ける。 ・教職員と児童が共に遊ぶ日を設定し、楽しい経験をさせることで、外遊びを推奨していく。また、いろいろなホールや遊具を活用した遊びを推奨し、様々な動きを通して調整力を高めるようにする。</p>
	<p>A12 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「児童(生徒)は、好き嫌いなく給食を食べている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 栄養職員と連携した食育に関係する授業を計画的に取り入れる。</p> <p>② 給食便りを毎月1回発行し、栄養面を含め食育や健康に対する家庭の意識の高揚を図る。</p> <p>③ 家庭との連携を図り、食育の啓発に努めるとともに、「<u>お弁当の日</u>」の計画、実施を進める。</p>	<p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は、75.3%であり、指標を下回る結果となった。直接に給食指導に当たっている教職員の評価も、73.0%と低い値だった。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き、学校栄養職員と連携した「食に関する授業」を計画的に実施できるよう、年度当初に年間の計画を立てる。 ・懇談会、給食便りや各種たよりを通して、情報を発信していく。 ・給食委員会による偏食を減らす活動を工夫して取り入れ、偏食が少しでもなくなるようにする。</p>
	<p>B3 児童は、自分の健康のために、手洗い・うがい・歯磨きを進んで行っている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「自分は、健康のために、手洗い・うがい・歯磨きを進んで行っている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 保健便りを発行し、健康な生活習慣を身につけるための情報発信をする。</p> <p>② たわらの時間や昼休みなどの外遊びの後、給食後の場面で、手洗い・うがい・歯磨きの励行を呼びかけとる。</p>	<p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は、90.7%であり、昨年度より2.1ポイントほど上回った。直接指導に当たっている教職員が91.7%、保護者が89.6%と昨年度より5ポイント以上も上回る高い評価になった。</p> <p>【次年度の方針】 ・給食後の歯磨きの時間に養護教諭が各教室を巡回して歯磨き指導を行い、丁寧な歯磨きを実践させる。 ・児童への意識づけのための、児童同士の声かけ指導とハンカチチェックを実施する。</p>
学 習	<p>A13 児童は、進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「児童は授業中に進んで話し合い、分かりやすく発表するなど、積極的に学習している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 授業の準備を忘れず、休み時間のうちに用意する。</p> <p>② 1時間に一回発表を目標に授業に取り組ませる。</p> <p>③ 話し合い活動を積極的に取り入れる。</p> <p>④ 板書したことをきちんとノートに書き写したり、工夫してノートにまとめたりすることができる。</p>	<p>【達成状況】 ・児童の肯定的な回答は85.0%で、目標を達成している。地域住民や保護者の肯定的な回答も95%、84.9%と昨年度を大きく上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・授業の中で、話し合い活動を積極的に取り入れたり、グループで恥ずかしがらずに話し合い活動ができるような雰囲気づくりを行ったりして、言語活動を充実させていく。 ・授業中、児童が発表する機会を増やすよう心がけ、「声のものさし」も使いながら、大きな声で発表できるよう意識づけしていく。 ・自分の考えを、分かりやすくノートにまとめたり、板書された字を丁寧に書き写したりする習慣をつけていく。</p>

本校の特色・課題等	A14 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「児童は授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① チャイム着席をさせる。 ② 授業中の姿勢や話を聞くときの態度について指導する。(合言葉で意識づけを図る。 ・「足はぺったん・背中はピン・おなかと背中にグーひとつ」 ・「話をします」「目を見ます」)	【達成状況】 ・児童の肯定的な回答が 76.8%で、指標の 80%を下回った、保護者や地域住民の肯定的な回答は 82.8%, 80.0%と前年度を上回ったが、決して高いとは言えない。  【次年度の方針】 ・「学習のきまり」については、地域の学校と協力してさらに指導を強化する。 ・「話を聞くとき」と「書くとき」のけじめをしっかりとつけ、話を聞くときは、目と耳と心で聞けるようにしていく。 ・授業中の姿勢や鉛筆の持ち方等の指導を徹底して行う。教師が意識して言葉がけするようにしたり、家庭にも呼びかけ、保護者の声かけも協力をお願いしたりし、家庭との連携を図りながら指導にあたっていく。 ・机と椅子の高さをこまめに調節するようにする。
	B4 本を読むことの楽しさや大切さがわかる。 【数値指標】全体アンケート「 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 心穏やかに読む、静かな朝の読書(朝の活動)を週 2 回実施する。 ② ボランティアによる「読み聞かせ会」を学年・クラスごとに行うよう年間を通して計画し実施する。	【達成状況】 ・児童の肯定的な回答が 75.4%で、指標を下回った。保護者も 75.1%で、児童とほぼ同程度である。たくさん読む児童もいるが、そうでない児童もあり、個人差が大きいことが原因と考えられる。朝の読書や、隙間読書は楽しく行っている。  【次年度の方針】 ・ボランティアの方々による読み聞かせが効果的なので、継続して実施していく。 ・「いつでも読書」を合言葉に、いつでもどこでも読書ができるよう指導を継続する。 ・朝の読書がすぐにできるように、前日の帰りに読む本を準備するように徹底させる。 ・図書室で借りた本を入れるバッグを持たせるよう、保護者に協力を呼びかける。 ・借りた本は、学校で読むだけでなく、家庭にも持ち帰り、進んで読書をする習慣をつける。 ・家庭にも呼びかけ、保護者と共に読書をする時間を設けたり、読書週間に親子読書を推進したり、保護者の意識も高めていく。 ・図書室のイベント的な取り組みを行い、図書室に親しませるようにする。 ・学級文庫を充実させる。
	B5 地域の特色を生かした学習の充実を図ることにより、地域を愛する心が育っている。 【数値指標】全体アンケート「私は、地域や企業の人たちと一緒に、地域の自然や文化などについて学習をして、田原の地域のことを好きになった」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 保護者・地域社会との連携を図り、体験活動を重視した地域の特色を生かした学習などを実施し郷土愛の育成を図る。	【達成状況】 ・児童の肯定的な回答が 80.0%となった。各学年において、地域の特色を生かし、地域人材を活用した取り組みを実施することができた。また、保護者の協力も数多く得ることができ、さらに、たくさんの学校支援ボランティアの方々に授業支援をしていただいた。 ・地域協議会の方が授業のサポートや室内の環境を整えるボランティアをしてくださり、たいへん効果があった。  【次年度の方針】 ・成果があったものについては次年度も継続して実施していく。学年や主務者を通して、次年度への引き継ぎもしっかり行っていく。 ・活動が同じ時期に集中しないよう、年間の見通しを立てて実施する。 ・教職員や保護者の方々は、体験活動や地域の特色を生かした活動が充実していると感じているが、児童の意識が低いのは、児童一人一人が実感していない現状があると考えられる。たくさんの方々にお世話になっていることや、そのありがたさについて、折に触れて話をし、児童が実感できるようにしていく。

## 〔総合的な評価〕

※地域学校園内で共通する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

### 【学校運営部会】

- ・「かしこく、なかよく、元気よく」を具体目標とし、「次代を担う児童一人一人が、社会的自立を果たして未来を創造的に生きていく力を身に付けることができるよう、教職員がそれぞれの持ち味を発揮しながら、家庭・地域と連携し、共に本校の教育を担う者として英知と熱意を結集することにより、一体感のある活力に満ちた教育活動を展開する。」を学校経営の理念に掲げて、この1年間取り組んできた。「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」という項目では、保護者・地域住民・教職員の三者平均は97.3%と高い肯定的回答を得ているが、児童の回答は88.58%と目標値の90%を下回っている。本校では、学級経営を行う上で有効な資料が得られる「Q-U」（宇都宮市全体で実施）を全学年で年に2回実施して教職員の意識を高めてきた。今回の結果を踏まえて、学級活動や縦割り班活動等をより充実させ、児童間の人間関係がより一層深まるようにしたい。
- ・本校では、「開かれた学校」・「地域の学校」という観点から、オープンスクールや授業参観・学校行事の公開等、様々な情報発信・提供を積極的に行ってきたが、その結果、保護者・地域住民からの肯定的回答平均が約96.2%という高い評価を得ることができた。
- ・教職員の基礎学力向上の取り組み、指導の工夫・改善、わかりやすい授業や個別の指導に対する取り組みや努力については、保護者の理解が深まってきている。学校便り・学年便り等の各種便りやホームページ等でそれらに関するコーナーを設けて、積極的に発信してきた結果と思われる。今後も、基礎・基本の学習の習熟・定着を図り、児童の変容・向上を図ることで、保護者の理解が深まるよう努力を継続したい。
- ・6年目を迎えた「魅力ある学校づくり地域協議会」の活動内容が充実しており、保護者や地域住民にもこの協議会の認知度が高まってきている。期待も含めその果たす役割の重要さに保護者の意識が高まった結果と言える。今年度は、「宮っこステーション」が立ち上がって3年目を迎え、「放課後子ども教室」の運営も軌道に乗り充実した活動が展開されている。活動内容や協力の要請等については、運営スタッフの確保と合わせて、各種便り等でさらに周知していくことが必要である。また、小中一貫教育に関連して、地域学校園協議会の運営について、田原中・田原西小学校と連携を図り、年間を見通して取り組みを進めていく必要性を強く感じている。

### 【児童指導部会】

- ・きまりやマナーについては、週目標や担任からの呼びかけで、廊下の歩行・あいさつ・食事など、その時その時にあった課題を指導してきた。一定の成果があったものもあるが、その時期を過ぎるとまた悪くなるものもあった。今後も継続して指導していく。
- あいさつについては、児童はおおむねできていると回答しているが、大人から見るとまだまだという評価である。田原地域学校園の児童指導の目標にもなっており、児童や保護者への呼びかけを根気よく続け、児童自ら元気な声であいさつが自発的にできるよう学校園で協力して呼びかけていきたい。
- ・言葉遣いや返事については、児童の間では、意識をせずに使っている言葉でも、人権上問題になるような言葉を使っていることもあり、その都度指導してきた。名前を呼ばれたら返事、友達の名前は「さん」をつけて呼ばせることをさらに徹底させていく。
- ・児童指導に関する項目の肯定的回答は全体的に低い。教職員も保護者も地域も、より良い児童を強く求めていることが感じられる。今後も保護者や地域の方の協力を得ながら、児童の良いところを伸ばし、改善して欲しいところは指導していく。
- ・教職員と児童の回答の変化は同じ傾向にあるが、保護者の回答傾向が異なる場合が多いので、学校便り等で学校の現状と取組を知ってもらい、より学校と家庭の連携が図れるようにしていく。

### 【健康指導部会】

- ・「学校は、事故防止や安全対策に積極的に取り組んでいる」では、児童、教職員、保護者、地域住民ともかなり高い評価を得ている。なかよしあいさつ週間で、担当の先生方を中心に通学路に立ったり、全校下校の際の一斉指導・警察の方の指導の様子が保護者や地域住民の方に直接伝わったりしたことが高い評価につながったと思われる。
- ・昨年度から、水泳検定、なわとび検定を実施し、体育科の授業・休み時間・放課後の活動等で継続的に取り組めるよう計画を立ててきた。具体的な目標が定まったことで、児童が進んで運動に取り組んだり、目あてを持って運動に取り組んだりする機会が増えた。
- ・次年度は、体力面についての推移を確認できる欄を健康カードに追加して、児童・保護者が体力向上に関心が持てるようにする。
- ・児童が外遊びのできる時間は限られているが、毎日外に出て遊ぶようにするには、教職員の児童に対する声かけが重要になってくる。今後、教職員が一体となって、児童が外に出て遊べるよう働きかけていくようにしたい。
- ・来年度は、鉄棒検定や持久走の練習の強化を計画し、児童の体力増強を図りたい。
- ・児童会集会で、仲間との外遊びの時間が計画されたことによって、進んで遊べない児童にも外遊びの機会が得られた。
- ・「給食を好き嫌いなく食べている」では、教師・児童の肯定的回答が昨年度よりもかなり低くなっている。保護者の評価も昨年度とほとんど変化がなく高いとは言えないため、今後も家庭との連携で推進していくと共に、児童が中心になり啓発活動を通し児童自身への意識の改革を实践させたい。

### 【学習指導部会】

- ・授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれると考える児童が多いが、今後も分かりやすい授業を实践し、授業参観やオープンスクール等でも公開していく。また、宿題やテスト、プリント、ドリル等を活用してきめ細かな指導を行い、学習効果が上がるようにしていく。



- ・学校生活での生活や様々な活動が充実していると感じている児童が多い。時数増加による負担感がなくなるように教育課程を編成していく必要がある。
- ・校内は、学習にふさわしい環境となっているので、今後も、機動班やボランティアとの連携を図りながら、学習にふさわしい潤いのある環境づくりに努めていく。また各学級で、清掃の仕方やトイレの使用法についても継続指導を行っていく。
- ・進んで話し合ったりわかりやすく発表したり、積極的に学習に取り組んでいると考える児童が多いので、さらに「発表の仕方」や「声のものさし」も使いながら、大きな声でわかりやすく発表できるよう意識づけしていく。また、話し合いや発表のもとになるに自分の考えを分かりやすくノートにまとめる活動や言語環境も充実させていく必要がある。
- ・さらに落ち着いて学習に取り組めるよう「学習のきまり」の指導に努め、「話を聞くととき」のけじめをしっかりとつけたい。授業中の姿勢や鉛筆の持ち方等の指導も家庭との連携を図りながら行っていく。机と椅子の高さをこまめに調節するようにする。（機動班に依頼する。）
- ・進んで読書をしていると考える児童や保護者が昨年度より減っている。読書量についてはたくさん読む児童もいるが、そうでない児童も多く、個人差が大きい。朝の読書や、隙間読書は楽しく行っているの、いつでもどこでも読書ができるよう、図書室で借りた本は、学校で読むだけでなく、家庭にも持ち帰り読書をする習慣をつけたい。家庭にも呼びかけ、保護者と共に読書をする時間を設けたり、親子読書を推進したりしていく機会も設けたい。学級文庫を充実させたりボランティアの方々による読み聞かせを継続して実施したりしていく。
- ・地域の特色を生かした学習の充実を図ることにより、地域を愛する心が育っている。保護者や学校支援ボランティアの授業支援を得て成果が上がった。次年度への引き継ぎを行い、年間の見通しを立てて実施できるとよい。児童にもたくさんの方々にお世話になっていることを感謝できるようにしていく。

## 6 学校関係者評価

### ◇ 学校教育全般（学校運営面）

- ・学校経営の理念が確立しているので、教職員・児童・保護者・地域住民が一体になって理念達成に向かっていく雰囲気を感じる場面遭遇する機会が多くなった。教職員が指導や授業で、100%達成の項目が多いのは頼もしく感じる。
- ・学校便りやオープンスクール等の様々な行事を通して、開かれた学校づくりが実践されていると思う。多くの保護者が、学校に行く機会が増え、「ちょこボラ（ボランティア活動）」で校内に出入りする地域の方の数も増えている。
- ・学校行事等で、地域の方々の協力のお陰で成り立っていると実感している。学校と家庭・地域・企業等との連携をさらに図っていくためには、学校や協議会のボランティア募集に関して家庭・保護者の協力がもっと必要と思う。
- ・多忙な中での先生方の努力に頭が下がる。縦割り班の活動が充実しているからか、児童どうし、時には衝突しながらも元気に仲良く遊ぶ姿が微笑ましく感じられる。先生方は、時々校庭に出て遊んでおり、良いことだと思う。

### ◇ 児童の様子全般（生活の様子、あいさつや言葉遣い等）について

- ・児童は、マナーを守り元気に生活できていると思う。以前は、クラスによって差があった約束が、「田原小のきまり」として目に見える状態になり、共通のルールとして認識され、実行されている。
- ・あいさつについて、できている児童もいるが消極的な児童が多いと感じている。学校によっては、元気なあいさつができているところもあると聞いているので、あいさつができない理由を探ったり、あいさつの大切さや必要性を指導したりしていく必要を感じている。大人の方も意識して大きな声であいさつを交わすよう努力する必要があると思う。
- ・いじめの発見はなかなか難しいと思うが、いじめに関しては、肯定的回答の割合に安心せず、否定的割合の少数の児童の方に目を向けての指導や対策が大切だと思う。
- ・児童の自主性を伸ばすという観点から、体験活動等において、先生方の指示が細かすぎる場面が見られた。ボランティアや指導者に気付かっただことだと思うが、自分で考え判断できる子どもを育ててほしい。
- ・放課後子ども教室の指導に係わってきて、言葉遣いや話の聞き方については、一昨年度・昨年度と比べても確実に良くなってきていると実感している。

### ◇ 児童の安全・健康・体力面について

- ・歯磨き粉を使っでの指導や持久走大会の再開については、健康・体力面での向上が期待され、すばらしい取り組みだと思う。
- ・安全対策のための組織を見直して、地域住民の協力体制を強化する必要があると考えている。
- ・教職員が外遊びを進んで行っているのを目にするが、少数に限られた先生なのが残念、授業の準備等で忙しいとは思いますが努力して欲しい。
- ・体力面の低下をととても残念に思う。学校の休み時間、外での群れ遊び等をしてほしい。体力の向上や心の発達には欠かせない群れ遊び、子ども達自らが考え自然に遊べるのが望ましいと考えている。次年度の方針に記述してあった事項について、ぜひ実践してほしい。
- ・プール指導のボランティアさんが、安全面で有効だった。単学級の学年は、担任一人の指導では目が届かない部分があり、特に、安全面で不安があったが、非常に心強く感じた。同時に、児童の意欲も高まっていた。来年度も、ぜひ継続した取り組みをお願いしたい。

### ◇ 学習面に関すること

- ・基礎学習の時間を強化し、繰り返し指導することで学習習慣を習慣化させるなど、基礎・基本の学習に積極的に取り組んでいる様子が頼もしい。その効果として、他の教科の学習に生かされることを望んでいる。1年生のうちから積極的に挙手をして授業に臨む習慣を身につけさせてほしい。
- ・児童の読書に関する回答が、指標を下回ったことを残念に思う。もっと本が好きになるような工夫の必要性を感じた。



- ・授業参観を何度かさせていただいたが、先生方の工夫や言葉かけ等、事前に準備等々の苦労があつての成果と思う。先生方の常日頃の努力に感謝したい。
- ・「児童は落ち着いて学習している」の回答は、教職員が高く、児童の方が低くなっている。教師と児童にギャップがあるのでどう捉えどう対処すればよいのか、熟考を要すると思う。

#### ◇総合的な評価に関すること

- ・総合的な評価に関しては、おおむね妥当であると思う。全ての項目がよく分析され、細かい対応が示されている。しかし、先生方が多忙と感じる中で、全ての項目に対応するのは困難なのではないか。重点項目を絞って取り組んだ方が、より効果的であると思われる。
- ・肯定的な回答の数値に目が向きがちだが、それに満足していると、大きな見落としが潜んでいる可能性がある。否定的な回答が数%だとしても、なぜ・どうしてそうなるのか考えて、対策を立てて取り組んでほしい。
- ・保護者の自由記述は、感謝の言葉が増えてきていて、一方的な意見が以前よりも減ってきているのは、信頼関係ができているからだと思う。自由記述の意見が一方通行とならないよう、学校便り等で、毎回“少しずつの回答”があっても良いと思う。
- ・教職員と保護者と児童の間でのギャップが出ているが、認識の仕方の違いがあり、それぞれの立場を理解する必要がある。「いじめの問題」については、アンケート等を活用し、今後も厳しい目で対処してほしい。

## 7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※ 下線 = 地域学校園内で共通する方針・重点目標・取組にかかわる内容

#### ◇ 学校教育全般(学校運営面)

- ・地域協議会委員の方々からは、総合的な評価に関しておおむね良いとの評価をいただいた。いくつかの点については率直な意見をもとに、本校児童の実態やアンケート結果と自由記述とそれぞれの意見を考慮して、次年度の学校運営、教育活動の改善に生かしていきたい。
- ・アンケート結果で、教職員・児童・保護者・地域住民のギャップが大きい項目について、学校だよりやホームページをはじめ、各種便りの発行、授業参観後の懇談会等において説明し理解を深めるよう努める。
- ・「田原小学校魅力ある学校づくり地域協議会」と協力しながら、地域の教育力を活用した教育活動を今後も推進するとともに、地域の方々に学校の様々な情報を発信したり学校と関わっていただけるような機会を設けたりするなどして、今後とも「開かれた学校づくり」をめざす。

#### ◇ 児童の様子全般(生活の様子、あいさつや言葉づかい等)

- ・保護者、教職員及び児童自身による肯定的回答が低い質問項目「児童の時と場に応じたあいさつ」・「児童の時と場に応じた言葉づかい」等については、地域学校園で共通の課題として取り組んでいきたい。
- ・言葉遣いやあいさつなど家庭の教育に係わる部分については、魅力ある学校づくり地域協議会やPTAとの連携を深めて、「家庭の教育力」に関する講演会等を開き、共通理解を図って推進していくようにする。

#### ◇ 児童の安全・健康・体力面

- 体力向上については、地域学校園の取り組みと合わせ、めあてをもって体力づくりをする場の設定を推進していく。(持久走大会の実施、各種検定の実施、外遊びの奨励、教科体育の充実・運動量の確保等)
- ・「食育」に関する指導は、学校と保護者の連携が必要不可欠の部分であり、学校においては、地域学校園での共通した取り組みを充実させ(お弁当の日、朝食指導、学校園統一メニュー等)、保護者に対しては、地域協議会とPTA共催による『親学講座』等を開催するなど、引き続き充実させていく。
- ・今年度は、「こども110番の家」の見直しを行ったが、さらに、次年度も安全対策連絡会・PTA等との連携を図り、充実させていく。

#### ◇ 学習面に関すること

- ・「児童は、授業中に進んで話し合い、分かりやすく発表するなど、積極的に学習している。」の児童の肯定的回答率が、本年度は85.0%と目標を上回ることができた。今年度の取り組みを反省し、教職員がさらに課題を自覚し、積極性が高まるような指導を工夫していく。また、学校の取り組みや児童の様子が分かるよう、授業参観・オープンスクール等の機会を活用し認識が深まるよう努めたい。
- ・漢字や計算力など基礎的・基本的な内容の定着を図るために、基礎学習の時間について、指導方法や内容について研究を深め努力を続けてきた。日課を見直した結果、「基礎学習の時間」を週に3回確保し、次年度も継続して取り組んでいく。
- 地域学校園においては、「学習の約束」・「学習の手引き」・「家庭学習のすすめ」の作成・配付を行ってきたが、次年度も引き続き実施し、より良い学習態度の育成や学習習慣の確立を図りたい。
- ・読書指導については、地域学校園での連携を図り、図書館司書を中心に、読書内容にも目を向け、読書・図書館ボランティアさん等との連携をいっそう深め、さらに、今年度以上の読書活動の充実を図っていくようにする。